旅立たせる お葬式

る現代の葬儀事情—

核家族化の進行や近隣との人間関係が希薄になった現在、故人を見送る葬儀のスタイルも縮小傾向となるなかで、そこにさまざまな問題も生じてきている。葬儀を熟知する3人の業界関係者に現在の葬儀事情を語ってもらった。

左から、中島浩盟極楽堂はなや社長、粂川りつ子オフィスシンシア代表、牧野欣胤真宗大谷派札幌別院北3条支院主任

葬儀本来の「感謝の場」の意義薄まる

——最近の葬儀の変化をどのように感じておられますか。

中島 送る人の考え方が少しずつ変化していることを感じています。故人を偲ぶというよりは、いわゆる〝物〟を送り出しているような感じを受けます。

牧野 昔は町内会など多くの方たちのお手伝いがありました。葬儀委員長、役員をはじめ、食事の支度などもやっていただいた。最近は業者の方にお願いすることが多いようです。時代の流れということなのでしょうが、人と人のつながりの場でもある葬儀という形が少なくなったと思います。

中島 わずらわしいことと考える遺族が、全てお任せにするわけです。しかし、長い人生を送った故人には生前お世話になった人も多くいるはずです。ところが今は心の底から「ありがとう」と感謝する場もなくなってきています。それでいいのだろうかという気持ちです。

——葬儀専門の司会業をされている粂川さんのお仕事は増えているのですか。

粂川 故人の人となりを紹介する役割です。以前は地域や職場の人がやることでしたが、今は縁のない私に家族も慌てなくてもすむという考え方ですね。事前相談はいわゆる〝終活〟の1つです。

牧野欣胤氏（札幌市仏教連合会事務局長、真宗大谷派札幌別院）

増えつつある葬儀の生前相談

——葬儀の事前相談は増えているのでしょうか。

中島 非常に多くなっています。我々の上部組織である全葬連（全日本葬祭業協同組合連合会）でも昨年から有資格者を認定して相談に対応しています。余命宣告を受けた人自らが相談に来られることもあります。本人が自分の葬儀の内容を決めておくと、もしもの時の出番が多くなっています。故人の暮らしていた地域が、遺族とはなじみが薄くなっていることが葬儀の企業化に結びついているのではないでしょうか。故人が生前に自分の葬儀についてある程度希望を明らかにしていればまた別でしょうけれど。

牧野 変化するニーズに合わせていくのでしょうが、亡くなっていく方が、子どもに迷惑をかけたくないというのが非常に多いですね。人間は生まれた時から死ぬ時まで人の手を借りなければ生きていけないのです。迷惑でも何でもない。親を見送ることが迷惑だというのは悲しいことです。

感謝の心で 現代の

—業界関係者が語

粂川りつ子氏（オフィスシンシア代表）

中島浩盟氏（北海道葬祭業協同組合常務理事、極楽堂はなや社長）

粂川 私なりに故人の人となりをつづっていかねばなりませんので、その方の生き方に沿ったものになるよう心がけています。亡くなられた方がもし自己紹介すればということを想定してまとめるのを原点にしています。生前に家族に葬儀の内容を伝えられるのはいいことだと思います。また、日頃仏壇に手を合わせたり、お寺詣りをする習慣のある家は葬儀もきちんとされていますね。

牧野 そういうご家庭は親のすることをよく見ておられるのです。昔の家族はそうしたことでつながっていたのだと思います。

中島 最近多いのは新聞などで事後報告をするケースです。すると故人とお付き合いのあった方が次々と来られて、かえって大変な思いをしたということも聞きます。いわゆる家族葬でやること自体、外には知らせないのが建前ですし、終了したことを告知するのもおかしいことだと思います。

真宗大谷派札幌別院にて記念撮影

「葬」から「送」への傾向も

——粂川さんの場合は規模の大きい葬儀の依頼が多いのでは。

粂川 そうしたのももちろんありますが、最近は家族葬の依頼が多くなりました。やはり札幌のような都市部では地域の人にお願いすることが少なくなったことを反映しているのだと思います。遺族の方が離れて暮らしている場合、地域の誰に頼めばよいのか分からないということもあると思います。

中島 町内の方などが委員長を務められる場合、不慣れで言葉に詰まったりして葬儀が進まないことも見受けられます。そうすると粂川さんのようなプロにお願いするとスムーズに進むわけです。経費を安くすることを優先させる葬儀では故人への感謝の気持ちが感じられません。

その究極の形が〝直葬〟と言われている火葬だけの形。私はこれは「葬」ではなく単に「送」だと思っています。人ではなく物の扱いですね。

牧野 私どもでは最近は葬儀ばかりでなく、法事や月命日に伺うことも少なくなっています。

粂川 私は当日だけのお手伝いですが、短い中でも故人とご家族やご親戚との関係がどうであったかはよく見えます。送る側の基本は心残りがないようにということではないでしょうか。

牧野 本来は故人を偲ぶ気持ちというのは自然に出てくるものなのです。葬儀は命の重さを知るまたとない場でもあるのです。それが何もせずにただ送り出すというのは、人と人がつながっていきませんね。

私どもの仏教連合会には宗派を問わず札幌の150寺が加盟して、折にふれて葬儀のあり方を考える会合を開いたり、お寺で葬儀をおこなうことの普及など地域活動を展開しています。

言う場もないような葬儀ではいけないと思います。最近の「家族葬イコールお金がかからない」という考えは間違いです。家族だけの葬儀であっても、かけるところにはお金をかけて立派に送ってあげるというケースもあります。家族や会葬者が亡くなった人に心を寄せる場が葬儀なのです。

中島 お寺での葬儀が少なくなった一因は斎場と無宗教葬儀の増加でしょうか。今は斎場にお坊さんが来てくれますから、お寺に行かなくなるわけです。斎場では宗教色が薄いですしね。

遺族の心の問題として考える「葬儀」

——改めて葬儀本来のあり方をお聞かせください。

粂川 葬儀には多くの人が関わります。どれが欠けてもジグソーパズルと同じく完成しません。やはり信頼で結ばれる、良心的で安心して任せられる人にそれぞれをお願いすることだと思います。遺族の気持ち、ニーズに合った葬儀社さんですとよい葬儀になるのだと思います。家族葬が悪いというのではなく、やり方だと思います。

中島 自宅でやられる葬儀でも心のこもったものにできますし、本当の家族葬になると思います。あえて家族葬と言わなくてもあまりお金をかけずに普通にできる葬儀もあるのです。残された人の心の問題です。運営側としては後々尾を引くトラブルの種を作らないことですね。

粂川 葬儀は亡くなった人へ感謝を表す場ですね。

牧野 何事にも「ありがたい」という感謝の気持ちを忘れないことが大事ではないでしょうか。

経済産業大臣許可 全日本葬祭業協同組合連合会・北海道葬祭業協同組合

札幌葬祭業組合

(株)博善社	☎011-512-1111	(株)葬祭総合センター	☎011-784-7878	北海葬祭(株)	☎011-561-3344
(株)極楽堂はなや	☎011-521-3126	(株)千恵公益社	☎0123-23-2309	青柳(株)	☎011-784-7300
(株)札幌北葬	☎011-763-2424	(株)琴似葬儀社	☎011-611-5650	(有)北野葬儀社	☎011-382-2332
(株)石狩葬儀社	☎0133-72-4444	(株)セレモニーはるか	☎011-898-9999	(株)札幌北央葬祭	☎011-781-4242
(株)公益社	☎011-242-4242	北日本葬祭(株)鳩苑	☎011-661-3351	(株)中央葬儀社	☎011-685-3336
(株)札幌倫禮社	☎011-873-7030	(社)札幌斎場	☎011-821-0631	(有)福塚葬儀社	☎011-511-1939
(株)博愛社	☎011-552-1111	(株)第一葬祭	☎011-872-3284	(株)大國屋	☎011-812-6611
(株)アイシンセレモニー	☎011-694-1194	(有)永運	☎011-789-4444		

お申し込み・お問い合わせは上記組合加盟店へ

昭和13年創業

安心と信頼の葬儀を…。

ご遺体搬送（地方送り）致します。病院→自宅→式場

（北海道運輸局長許可 北自貨第280の2号）

通商産業大臣認可50第1784号・全日本葬祭業協同組合連合会加盟

24時間体制

(有)福塚葬儀社

TEL (011) 511-1939 札幌市中央区南6条西9丁目 FAX (011) 511-0857